那珂市議会原子力安全対策常任委員会記録

開催日時　令和７年３月14日（金）　午前10時

開催場所　那珂市議会全員協議会室

出席委員　委 員 長　小宅　清史　　副委員長　花島　　進

　　委　　員　原田　悠嗣　　委　　員　渡邊　勝巳

　　委　　員　萩谷　俊行　　委　　員　笹島　　猛

欠席委員　なし

職務のため出席した者の職氏名

　　議　　長　木野　広宣　　事務局長　会沢　義範

　　次　　長　秋山雄一郎　　次長補佐　岡本奈織美

会議に付した事件

（１）　勉強会の振り返りについて

　　…勉強会の振り返りについて協議

（２）市民の皆さまの声を聴く会について

　　…今後のスケジュールの確認

（３）その他

会議資料　別添のとおり

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

　　開会（午前10時00分）

委員長　おはようございます。

　開会前にご連絡いたします。

　本日は換気のため廊下側のドアを開放して常任委員会を行います。

　ご理解のほどよろしくお願いいたします。

　会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送いたします。

　会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切り頂くかマナーモードにするなどご配慮をお願いいたします。

　ただいまの出席委員は６名でございます。

　欠席委員はおりません。

　定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

　職務のため議長、議会事務局職員が出席しております。

　ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長　改めましておはようございます。常任委員会も今日が最終日となります。

また昨日からかなりの花粉がどんどん飛んでますので、皆さん体調管理には十分気をつけていただきますようよろしくお願いします。

本日は会議案件が勉強の振り返りと議員と語ろう会という部分がございますので、小宅委員長の下、慎重な審議を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いします。

委員長　ありがとうございます。

それでは本委員会の会議事件は別紙会議次第のとおりでございます。

これより議事に入ります。

１、勉強会の振り返りについてを議題とします。

２月21日に広域避難計画についての勉強会を実施いたしました。

こちらの振り返りを行いたいと思います。委員の皆様感想やご意見よろしくお願いいたします。

暫時休憩いたします。

休憩（午前10時02分）

再開（午前10時03分）

委員長　それでは再開いたします。

それでは先日の広域避難計画について執行部から説明をしてもらいました勉強会がございました。それについての振り返り、設営、この間全議員が出席ということで、設営等に初めての試みでしたので、設営等に関しましてでも構いませんので、何かご意見等ございましたらお願いいたします。感想でもいいですよ。

原田委員　勉強会の中でも、皆様からお話もあったかなと思うんですけども、やっぱり広域避難計画、正確なものというか、すごい精度の高いものっていうよりかは、もっと簡易なものでもいいから早くつくって、まずはお知らせしてブラッシュアップしていくっていうのが、皆様おっしゃってたことですけど、それがいいかなというふうに思いました。

以上です。

委員長　ありがとうございます。

ほかございますか、今の意見に対してでも構いません。

渡邊委員　私も原田委員の意見に賛成でございまして、やはり避難計画は法的につくらなきゃ駄目だよというルールがある中で、やはりこれは早急につくるべきだと思います。ただその先ほど原田委員もおっしゃいましたけども、最初から完璧なものってなかなか難しいと思いますし、避難訓練をするにしても、計画もない中で避難訓練をしても余りちょっと意味がないのかなと私は思うんですよ。となれば避難計画に基づいた避難訓練をやって、それで実際問題点を洗い出しながらブラッシュアップしていくっていうのはやはり必要だと思いますので、やはり避難計画の早急な制定をするべきだと

いうふうに思いました。

以上です。

委員長　ありがとうございます。

ほかございますか。

副委員長　まず説明が全然、雑だったっていうのが、私はしばらく原子力安全対策常任委員会やっているんですけど、その中で今までいろんな説明聞いてきた中でも十分説明されてない。今何で行き詰まっているかとか、今何やろうとしてるか、なんなんだっていうくらい、あの場で言いましたけど非常に説明としては不満でした。

それから、今おっしゃった、お二方もおっしゃった件なんですけど、私は避難計画をつくっていくこと自身は全く反対ではないんですけど、それ問題なのは、できたってことにしちゃうってことなんですよ。そもそも何を想定するかっていうことなんですが、本当に小規模な漏れだったら、そもそもここは避難計画は要らない。

本米崎地区のあたり、一部はいるかもしれないけどっていう話なんですよ。何が問題かって言ったら、本当に大きな事故が起きたときにどういう対応ができるかってことなんですよ。そのために避難計画をつくっていくのはいいんですが、だけど実際には、この間の勉強会でも出たようにバスの手配はない。それから、みんなが一遍に逃げたらとんでもない混乱になるとか、それから除染するために測らなきゃいけないんだけど、それもない。一応計画してるんですけどね。ただ本当に小規模なものしか対応できないようなプランでしかないっていう状況があるんです。

そういう中で動かされてしまったら、ちょっとこれはまずいぞと。でもかといって動かされちゃったら、本当に事故のことを考えて、何らかの対応を考えていかなきゃなんないという意味で、今までも計画はできてないと言いながら、市民には知らせてるんですよ。今こういう案で進んでますと。ただそれ今崩れちゃってますけど、避難所の面積の問題が１番大きいんですけど。だから、そういう形で避難計画つくっていて、避難計画はとてもじゃないけどまともなものができないよとね。でも我々のやる範囲でここまでできているという、話にしておくのが１番、誠実かなと私は思うんです。

あとは本当にどのくらい事故が起こりうるかっていうことなんですよね。多くの人が考えてるように、何かあったらみんな一斉に逃げ出すよという話は、僕は一部しかないと思ってます。結構みんな節度があるよね。でも、10％の人が逃げ出しても、結構な大混乱になりますよね。だから、本当に避難計画が難しいんで、そんなこと何で我々がやんなきゃなんないのかっていうのは正直ありますね。皆さんご存じかどうか分からないんだけど、東海第二原発がちゃんと動いたとして、発電量が110万キロワットなんですよ。那珂市のその隣にある石炭開発が100万キロワットクラスが幾つかあるわけですよね。それを考えたらね。いや、あれで避難計画を含むなんて話ないですよね。火発でね。どうなんですかねって、要するにメリットが、リスクに比べて、

少ないっていうのは私の考えです。でも、そのほかにいろいろ１番大きい問題は安全性の問題なんです僕にとっては。今、実際には避難計画が少々ずさんで、ぱっと逃げられなくても、なんていうかそんなに変わらないって変な言い方ですけど、少なくとも那珂市周辺でいったら、被曝はしてもね、すぐに死ぬっていうレベルにはなかなかならないんですよね。

福島事故でも、ご存じだと思うんですが、周辺の方は急性症状で死ぬってことはまずないですよね。だけど、例えば何万人もいれば、そのうちの何割まではいかないかもしれないけど、0.1％とか１％ぐらいのオーダーで、30年ぐらいにがんになるリスクが高くなるっていうのは、普通に言われてることなんです。

だから、何ていうかな、それを恐れるから、みんな放射線被曝を恐れるわけですが、そういうことを考えると、慌てて逃げて大混乱になって交通事故が起きたりするよりは、整然としていたほうが実はいいと思ってます。

一方で過去の例によると、それを指揮するのは国なんですよね。国はまともな対応できたこと今までないんですよ。

一つはＪＣＯ臨界事故、あの時は村上村長が避難を決めたんですけど、当該の事業所からさんざん避難させてくれって言われ避難決めたんだけど、本当は国が命令することなんですよ。それを勝手に村の村長がやって、後でどんなおとがめがあるかもしれないけど、決断したって言ってます。

福島事故でも判断遅れましたよね。だから、何ていうのかな。我が国は原発なんて動かす能力ないんじゃないかって私は思ってます。

そういうことで、何ですか、避難計画についてはさっき言ったように、なるべくちゃんとつくったほうがいいんだか、ちゃんとしたものができると思ってないし、かといってつくるための努力をしなきゃなんないってのは分かるけど、本当は首長にそんなこと言ったってできるわけないよって言ったっていいんですよね。ただ、今の執行部にそれをいう度胸はないでしょうから。つくる努力は続けていき、それこそブラッシュアップしていくべきだとは思うんですけど、でもやっぱりできたって言わないでほしい。形にはできてもみんなにこういう計画で進んでますっていうのは知らせて、いざとなったらこういうふうにします。だって、動いたらすぐでもそういう可能性があるわけです。だから、そういうことをやんなきゃいけないけど、でも、あたかも実効性のある避難計画ができたみたいな話にしちゃうと、国の再稼働の動きに拍車をかけちゃうと思ってます。ただし、那珂市ができてないって言っても、そこそこの形ができていれば、国はできたことにして動かすことに向かっちゃうかもしれないんですけど、それはそのときだと私は思ってます。

委員長　ありがとうございます。

今お話ありましたけれどもまだ、完成できたっていうね、完成したっていうのは確かに難しいのかもしれないっていう現状がある中で、ただ、好む好まざるかにかかわ

らず、近くに原発があるという事実は変わらないわけですから、やはり引き続き執行部には、今意見が出ましたようにブラッシュアップを続けていっていただきたいと、それから市民、議会への周知も、続けていっていただきたいというふうに思うわけであります。

笹島委員　あれ、毎回避難計画については矛盾を感じているんだよね、正直言って。今言った再稼働ありきでやってるから、もちろん再稼働しなければ、それが安全でいれられるとは思わないんですけども、要するに避難計画の形だけつくれということで、本当に、今度避難先は迷惑なんですよ、正直言ってね。そこにどのくらいいるんだと、体育館はそのまま使えないは、学校まで行ってあれしてっていう、それからごめんなさい。支援の品物とか云々ですよね。そこに何万人と人が押し寄せるわけですから、わざわざそういう今言っていた迷惑をかかる行為をわざわざつくるということ自体、ましてここら辺は30万人60万人の自治体であって、首都圏に１番近いところですよね。そういうところにやっぱり、再稼働していくっていう、１番テロに狙われやすいとこですよねここがね。効果が１番あるとこだからね。何でそのリスクのとこに何でその再稼働しなきゃいけないのかって、それでまた我々何でそういうリスクがあるようなことで、もう分かっていながら、避難計画をつくっていかなきゃいけないって非常に矛盾してる。１企業のためにね、国策かもしれないけど１企業、電力関連会社のためにということで、あの人達は相当もうけてますよね、正直言ってね。我々のそういう苦しみを土台にしてね。

積み上げ方式が何とかって言ってね、本当に矛盾を感じながら、何で我々こういうことに一生懸命やんなきゃいけないのかなあと思いながら、でも、与えられたことなんでしっかりやっていきたいと思います。

以上です。

委員長　ありがとうございます。

渡邊委員　ちょっと今の笹島委員の考えと違うところがあるんですけども、避難計画は再稼働するためにつくるんではないと思うんです私は。

確かに避難計画がなければ再稼働はできないのは分かるんですけども、そもそもの考え方としては、避難計画と再稼働って僕は別物じゃないのかなと。要は今、原子力発電所はあそこにあるんですよね。動いてるものは別にしても、今動いていない。ただ今後動くかどうか分からないですけども、今のところ今は動いていない。

ただ、それがあるがために避難計画はつくらなきゃ駄目なんじゃないかと思うんです。それは、避難計画と再稼働は今は別なものだと思うんですよ。ただ、再稼働が実際現実化したときには、それは当然もしかしたらば、直さなきゃならない部分多々出てくるとは思うんですけども、避難計画とやはり再稼働は別にまずは考えていって、避難計画はつくらなきゃならない。ただそれは再稼働に直接つながるものではないっていう認識でいいんじゃないかと思って、まず私はいるんです。

その上で、もし再稼働の話は現実に帯びてくれば、避難計画がもし足りない部分は当然直さなきゃならないでしょうし、改定はすることはもう当然前提でもいいのかなと思っているんですけども、私の考えってどうなんでしょうかね。

副委員長　そこはね、全然違うとこなんですよ。

そもそも原発はどういうものかって考えてほしいんですけど、大量に放射能があるってことは皆さんご存じですよね。でもそれだけじゃなくて、そこは物すごい動いてればですよ。とんでもない水を出してそれをがんがん冷やして初めて成り立ってんです。要するに、熱がすごい高いエネルギーを持ってるところを守るのと、冷えてるのを守るのは全然技術的に違うんです。

そこは遠藤議員は分かっていて、ふざけたこと言ってんだけど、原発があるから何とか避難計画が必要ですってそこまでいいんですよね。

原発が動いているときの必要な避難計画はどういうものか。動いてない、とまってもう10何年もたった原発に対して必要な避難計画は何かと、これ全然違うんですよ。そこなんですよ。だから動かしたくないっていうのは、その動いているときの事故の大きさはとんでもないからっていうんであって、動いてない原発に対してすぐ廃炉にしろとかなんていうの、何とかどっか持っていけとか、私は全然言ってない。思ってない。確かにリスクはゼロじゃないです。このことは国も認めているんですよ。原発に対して、燃料をある程度処理して、将来動かさないよっていう原発に対しては、必要な避難計画は全然小さいんです。例えば、正確じゃないかもしれないんですが、今ＰＡＺって何かあったらすぐにでも逃げるっていうゾーンがありますね。あれがせいぜいＵＰＺになるくらい話。何か、様子を見ながらということですね。同じように、大量の放射能を持ってるのは再処理工場の持ってる廃液なんですよね。それに対して原発反対の方なんかが原発より危ないみたいなこと言ってんだけど、私はそう思ってない。それはなぜかったら発熱量が全然違うから、確かに放射能の量は物すごいんだけど、確かに漏れたときに周辺に被害がある可能性はもちろんあります。でも那珂市まで影響が出る被害があると私は思ってないということなんですよ。

何でもそうですけど、起こりえることに対して、どのぐらいすれば、どのぐらいの確率で起きそうか、正確に分かりませんからね。というのを考えて、そういうのに対して対策を考えるってのは基本であって、単に放射能があるからとか、原発があるからっていう話じゃないんですよ。

委員長　よろしいですか。

ありがとうございます。

笹島委員　3.11があったよね。それでＮＨＫスペシャルか何か見たの俺ね、この前の3.11のときに、最近それ見たの。そしたらやっぱりそのどのくらいいたのかな、あれ１万人はいないですよね、今言ってた浪江町とか、大熊町とかあの辺りはね。何千人だったでしょう。

ああ、まあいいや。そんなとこで戻ってきたのは100人とか200人だっていうことを言ってるんです。それで、あのときは今言った避難計画になくて突然爆発したわけですよね。あそこの福島事故。突然じゃないの。それを気づいて、だから勝手にあのときは避難したんでしょ。

そうですよね。

それでどこだったっけ、放射能によってその飯舘村に逃げていったんだけど、放射能そっちいって被曝しちゃってしまったっていうあれですよね。逆に言えばね。

だから、逆にはどうなんですか、ここに避難計画をつくっていって放射能の向きに風向きによってそちらに行ってしまうっていう、ちょっと逆にそしたらその避難計画をつくったためにっていう、そういうのはあんまり関係ない。

委員長　今避難先が筑西市とか県西の方になっていますのでそちらまではいかないと思う。

笹島委員　いや、違うんですよ。飯舘村って逆方向に結構な距離でしたよね。原発地区からね、逆に北側ですね、斜め北ですよね。とても向こうには放射能はいかないっていうがいってしまったっていうことで、被曝してしまったっていう、逆にそういうケースがある。だからそれどうも矛盾してるんですよ。だから逆に言えば、避難計画をつくるのは結構だけども、何のためにつくるのかなっていうことも私前から思ってるんですけど、何の意味があるのかなと、わざわざ今言ってた。わざわざみんなどこに逃げようと勝手じゃないのかな。

副委員長　飯舘村は多分、何ていうかあそこ山間ですから、風が流れると、当然谷に沿っていきますよね。あの福島事故のときは風向きがいろいろ変わったので、半分以上が海に行ったと言われているんですよ。だけどいろいろ変わってるときにある時点で、大事な時に飯舘村へ行っちゃった。だから、結構、遠いところまで汚染したんですよ。

我々の場合どうかって言ったら、これはもうそのときになってみないと分かんないです。ただし、気象条件なんかをよく見て、それから各地の放射能の高さなんかを見れば、それなりにプランニングできるんですよ。だからそれはプランニングできるだけで・・・。

笹島委員　我々が指示した、指示されたところに避難したところ放射能がきてしまったために被曝してしまったって、じゃあそれは誰が責任とるんだとかって余計なことやったためにね。だから避難するのは自由じゃないかと、どちらの方向へ行くかはそれ自己責任になるでしょう、逆に言えば。改めて那珂市の人は筑西市、桜川市のほうに避難してくださいと、みんなそこ行ったと、そこに放射能が行ってしまったためにみんな被曝しまった。じゃあ誰が責任とるんだというふうになっちゃうでしょ。逆に言えば、まあいいや、この話は終わり。

委員長　なかなかそのパラドックス的な話になってしまうので、とりあえず１回おいときましょう。

ほかございますか。

副委員長　難しい話じゃないんですが、全議員が聞いてくれたんで、それはよかったと思いますね。それだけ。

委員長　ありがとうございます。そうですね、原子力は皆さん結局関わる問題ですので、全議員が聞ける機会というのが設けられるときはなるべく設けられるようにしたいと思います。

以前、原子力科学研究所の視察のときも議長に相談しましたら全議員に声かけようかということで、あの時もたくさんの議員に参加していただきましたので、やっぱそういうふうにいろいろ情報を共有しながら、知識もブラッシュアップお互いしていければなというふうに思います。

副委員長　原子力科学研究所の見学なんですけど、ちょっと残念だったのは、何かそう設備が平面的で、例えば特にシビアな問題が消滅処理関係、数値の話はしてるんだけどじゃそれがどういうふうにして成り立つ可能性があるかって話全くなかったですよね。だから、ちょっと残念でしたね。

案内してくれたのは元私の上司なんですけど、部長で、ちょっと何か能天気過ぎるっていうか、やっぱりやってる頑張ってるところと、難しい課題があるっていうことを両方言ってくれたほうが、率直な、視察になったかなと思います。何か大きな装置見ていいねっていう、すごいねとか言って終わっちゃったんでは、何か本当の問題から向き合わないっていう感じになっちゃうんですよね。

以上、感想です。

委員長　再処理棟の話ですか。

副委員長　消滅処理です。

委員長　いろいろ物理学的な部分難しい部分もありますけども、行ったことによって得たものはきっと皆さんあると思います。

私ももう10数年前ですけど六ヶ所村に原子力の委員会で行ったときに行ったことによって非常に自分の人生感というか、原子力に対する考え方も大分変わったので、本当にいろいろ見て、学ぶことというのは大事なことかなというふうに思います。

この件は大体、以上でよろしいですかね。

ありがとうございます。

続きまして、市民の皆様の声を聴く会についてを議題といたします。

こちらはですね日程のほうをちょっと仮で抑えさせていただいたんですが、５月18日日曜日の午前９時半から市民の皆様の声を聴く会と、語ろう会じゃなくて聴く会を実施いたします。時間は午前中２時間ぐらいを予定しております。

場所はふれあいセンターすがやです。

今回の対象者は、那珂市在住、市内に通勤通学している方も対象といたします。

当日の詳細及び役割等は後日改めて連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

こちらも設営等について何かご意見とかご提案があれば、この場でお聞きします。

笹島委員　これ何を聴く会なんですか。

委員長　当委員会は原子力安全対策常任委員会ですので、原子力関係に関することということで詳細は今後また決めていくということになります。

笹島委員　市民には難しすぎてどうなんですかこれ興味が湧くような。

委員長　市民に難しいかどうか私たちが決めることじゃないので、市民の皆様に広く募集をかけて興味のある方に来ていただくという形になります。

笹島委員　市民は原子力とともに生きてるわけじゃないから、どうなんですかね。何をどういうふうな人に聞きたいのかっていう市民は、想像してね。

委員長　といいますと、どのようにするのが理想だと思われますか。

笹島委員　いや、今考えてるところなんで、聞きながらね。聞きながら今いきなり言われても。

委員長　広く、こういうことをやりますよということを周知しまして、その中からご興味のある方当然いらっしゃるでしょうから、先ほども言いましたように、隣接の自治体に原発があるという現実もございますし、原子力科学研究所もあるということもありますので、興味のある方は必ずいると思いますので、そういった方に参加を頂いて、お話を市民の方のお話をこちらが聴くというような形での設営を今は考えております。

笹島委員　どうもね、ごめんなさい。市民の人たちと原子力、無結びつかないんだけども、何か今言った原子力のお話し聴きますよね。何かちょっと生活に関係するようなあれはないんですけど原子力、何もないか。

副委員長　市民の全員が知識なり関心があると思ってるわけじゃないですけど、先ほど言いましたように大きな事故があったら逃がさなきゃいけないわけでしょう。

　そしたらやっぱり意見のあるかた大勢いますよ。だから要するに全員分かるようにっていうのは、だったら、何か講演会なりやるなりとかという話になるんでしょうけど、こちらから働きかけるというよりは、意見を聴くっていう形だったら、いろんな人の声を聴いたらいいかなと。今までの例からいうと結構人数来てくれてましたよね。

　賛否両論、賛成のことも何か組織されてきたっていう話を最近聞いたんですけど、反対だってやっぱり那珂市でこういう話があるから、反対の意見言いに行こうって言ってくれる人もいます。

　原子力安全対策常任委員会では、今までも何回かやってるんですけど、情勢は少しずつ変わってます。東海第二の運転とかいろいろトラブルがあったり、それから、運転見込みを具体化して、また届いたんですけど、いたりするし、国の原子力政策だって変わってるという状況がありますから、こういうのって何度聴いても私はいいと思っているんです。

　那珂市だって例えば道路の橋とかいろんなこと下水道の話とか、何度も同じようなこと聞いてるわけじゃないですか。だから、思うような意見が聞けない事あるかもしれないけど、とにかく、皆さんっていうか多くの方がどう思ってるのを聴くってのは

僕は意味があると思ってます。

渡邊委員　ちょっと事務局に確認したいんですけども、前回までの同じようなことやってますよね。その議事録を見せてもらってもよろしいですか。どういうやりとりがあったかちょっと事前に１回見たいなと思いますんで、それをちょっとお願いします。

あと、今回すみません。まだ私１年でちょっと聞くの申し訳ないんですけども、今まで語ろう会をやってて、要は議員と市民の方々がお互いにディスカッションまで含めるような話だったと思うんですけども、今回このタイトル自体が、聴く会になってるので、一応意見を徴収するという目的で、余りこちらが答弁のようなものをしていいか、なかなか難しいと思うんですけども、これやったら多分２時間絶対おわらないと思うんすね。２時間っていうことの中でやってくんであれば、こういう意見をまず聴かせてくださいっていうスタンスでいくということでよろしいですか。

委員長　まず、議事録に関しては要は去年からこの今の委員会じゃないすか。その前の議事録ということですね。

分かりました。事務局お願いします。

それから今回聴く会になってるってことなんすけど、前回も実質聴く会だったかなと。余りこちらのほうからそれはこうですよとかあれですよっていうことは言えないので、聞かれたことに対して、回答する、回答できないことに関しましては後日回答する。執行部に申し伝えることについては執行部に申し伝えるというそういう形になると思います。

笹島委員　毎回毎回同じようなことやってて、これ聞いて何の参考にしようとしているの、これ。

委員長　そうなんですけど毎回毎回同じなんですけれども、毎回同じじゃないですけど、メンバーが変われば意見も変わりますし、基本的に根本的に那珂市っていうのは隣接自治体で、原発が動いたからって税収が上がるわけでもないし、市としてのメリットってのは非常に薄いんですよ。

そういった中でどういった意見が皆さん感じてらっしゃるのかというのは、やっぱりこう状況によっても変わってきますし、恐らく3.11前っていうのは原発に対するアレルギーってそれほどなかったと思うんですが、3.11以降もう14年、先日14年たちましたけれども、今、市民の皆さんはどう考えてるのか、今後再稼働あるかないか分かりませんけれどもそういったことに関してどの程度関心があるのかというようなことを時下に拾えればということを趣旨に開催したいというふうに思っております。

笹島委員　今はだんだん薄れてきてますよね。あれから10何年たってて、それと同時にこの来てる方いつものメンバーになってるっていう、ある程度知識とかね、そういうことになるとお話しできないからね。

ですから、全くその本当の市民の方っていう、ちょっとこれ知っててっていう方が本当は来てほしいんだけども、来ないですよね。やはりね、どういう話を質問してい

いかとかどういう話でいいか分からない。何かそういうとこね、何か探り入れたいなって思うんですけどね、どういうあれであれですかっていう。いつも同じ人が来て同じ質問していって、結局、今言ってた、集約して云々という結局同じっていうことは、何年もやってるんで、何か代わり映えすることやってほしいんだけどね。

委員長　そういうのを踏まえて去年ＰＴＡ関係の方とかに限定して募集をかけたのですが、応募者が１名しかなかったので中心になりましたという事情を踏まえまして、今回また広くちょっと周知をさせていただくというような流れになります。

ほかございますか。

よろしいでしょうか。

前回のですね、反省も踏まえまして発言時間等を１人何分までと、質問も何回までというふうに制限を設けたいと思いますので、なるべく多くの方の意見が拾えるように進めたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

続きましてその他を議題といたします。那珂市議会ホームページへの問合せについてになります。

内容はサイドブックスに掲載しております。事務局より説明をお願いいたします。

次長　今年の２月11日にホームページに原子力問題に関するお問合せがございましたのでご説明いたします。

資料をご覧ください。

件名は、市民の声を聴く会や議員と語ろう会での市民の意見が全員協議会や本会議に全く反映されていないことについての質問ということでございます。

お問合せ内容でございます。読み上げにてご説明いたします。

昨年10月の衆議院選挙後、国の原子力推進委員会は政権交代を察してか、女川・鳥取と矢継ぎ早に40年を超えていようと、沸騰水型であろうと老朽原発を再稼働しています。

原発や過酷事故についての問題意識や経験値の乏しい人たちは、過去から学ばず、ほとぼりが冷めれば、またやすやすと安全神話に乗せられるようです。

委員会のメンバーが代わるたびに、原発見学会へ、またここからかと思ってしまいます。

それならば、過酷事故発生時の原子力行政の刑事責任を明確にしてから、実効性のない避難計画や老朽原発の再稼働を判断するのが最低限の常識ではと前回のメールでは伝えました。

一方、原発の新増設には数兆円もの予算を要し、既に経済的には破綻しており、銀行も資金を貸さなくなっています。

そこで経産省はＲＡＢモデルと称した国民からの資金徴収を画策しているとのこと。まだ建設も発電もしていない段階から、電気料金の中に組み込み、徴収する仕組み、あの総括原価方式を復活させようとしています。

電力自由化を阻害して、不公平な原価算出の温床として廃止されたにもかかわらず、まさに原発経済マフィアです。

原子力小委員会でＲＡＢモデル（原発の総括原価方式）が提示されました。

@環境哲学チャンネル大島堅一。

政府の原発コスト検証を検証してみた。今分かっている原発のコストは幾らなのか。

@環境哲学チャンネル大島堅一ということでユーチューブのチャンネルのアドレスが表記されております。

次のページをご覧ください。

大島氏のような原発反対派の委員から見ると、日本はこれだけでたらめな原子力行政を続けている国ということです。

前市長の時期には脱原発の機運や期待があったのでしょう。

当初は傍聴していた東京新聞や茨城新聞の記者もニュース価値がないと判断したのでしょうか。傍聴することもなくなりましたね。

私も2018年９月14日の原子力安全対策常任委員会から傍聴していますが、これまでの委員会で常々思う疑問についてご回答ください。

①市民の声を聴く会や議員と語ろう会など、本来こうした会の目的は何なのでしょう。意見を求めてどうするつもりだったのでしょう。

②委員会で集めた多数の東海第二原発再稼働反対意見が、全員協議会や本議会の議題として、なぜ全く上げられないのでしょう。

③意見を聴く会などで再稼働反対意見がほとんどを占めても参加人数が少ない。議員と語ろう会でのたった１人の意見、原発問題について余り話題にしたくないことを、ことさらに取り上げるような議員もいます。ではなぜ、こうした議員は住民アンケートや住民投票を進めようとしないのでしょう。

④意見を聴く会の後、住民投票や住民アンケートの実施の機運がありましたが以前に行った市民アンケートでさえ難しいところとのメールでの回答。具体的に何が難しいのでしょう。また機運がしぼんだのはなぜなのでしょう。

⑤これまで委員会を傍聴した限りでは、意見を聴く会などでの再稼働反対意見は上に上がらず、市民間には熱量の違いがあるにもかかわらず、それ以上広く意見を募ることもせず、原発に関心のない市民へ対象を絞って挙げ句、参加者が１名になると文書で回答、回答文にも問題意識を抱かせるようなことを書くななどという始末。

東海第２原発の再稼働に関心を持つ市民は少ないのだから、行政が一方的に判断しても構わないという筋書で既成事実をつくるだけの結果になっています。

最初に持った那珂市の原子力行政に対する疑問、原発ありきなのではにほかなりませんが、そうではないと断言できる理由を挙げてください。

⑥以上のようなことを踏まえても、いまだに国は原子力の原子力行政に過酷事故発生時の責任はないと考えていますか。

回答必要ということでございます。

以上でございます。

委員長　ありがとうございます。

何かご意見ございますか。

先ほども、申し上げましたように那珂市は隣接自治体でございます。基本的に再稼働したところでメリットって余りない。

そういった前提の中で、ただ、やはりそうは言ってもですね、好む好まざるにかかわらず、やっぱり隣にあるという現実があるので当議会も、原子力の委員会を設けているという中で、今再稼働をどうこうという話を那珂市がするというような段階ではないというふうに私は思っております。その判断をする時期でもないというふうに思っておりますし、そもそも東海第二が今後どうなるかもまだ未定、未知数な部分もあるかなという部分も踏まえましての回答例をつくって、お送りする、返信するという形になるかなというふうに思うんですけれども、ご意見ございますか。

笹島委員　確かに原子力の東海第二原発を立地してない。隣接しているだけのそういうとこなんで、先ほど委員長が言ったメリットがないということなんですけどね、もっと端的に言えば、迷惑施設があるということで片づけてしまっていいのかどうか、被害だけ被る。今言った金銭的なメリットもないと。

熱心に、那珂市は結構ここの周りの市町村の中で原発に対して熱心に今言ってた、調査研究してますよね。立地している東海村はどうなのか。我々よりも温度差がやっぱり低いのかっていう、それはどうなんですか、そういうちょっと話ずれてんですけど。

副委員長　東海村の状況で言えば、特別委員会がありますね。議長以外全員参加だったと思った。ただし東海村という場所の問題もあって、原発を進めたい方のほうが人数多いと思います。反対してるのは数人じゃないかな。ゼロじゃないですけど、

笹島委員　だから那珂市よりも熱心に取り組んでいるんですかって今言った原発に関してそれをちょっと聞きたいんです。

副委員長　取り組んでいます。

笹島委員　具体的に。

副委員長　何かトラブルがあるごとに、ほぼ全員の議員参加で日本原電に話を聞いたり、ディスカッションをしてますね。ただ、批判的な人がさっきも言ったように少ないです。だから、例えば防潮堤の基礎の施工不良問題があって、それが議会で説明されたときに、そんなのはどこにでもあるよ、問題ないんだよっていうような発言する議員がいて、とんでもないこと言うなってとがめられるわけじゃないと全員にね。もちろんとがめる人いますけどね。真面目に考えてる人は。そういう意味では、那珂市と違って、組織的に原発容認の方々を育てられてる側面があります。露骨に。

委員長　よろしいですか。

ほかご意見ございますか。

この質問に対して私はこう思うでも構わないですよ。

副委員長　ここに書いてあることはかなりそうだなと思うとこがあって、議会としてなり、この委員会としてなり、原発反対に対して、何ていうかな、率直にこういう意見がこれだけありましたっていう報告はしてないですよね。意見があったってぐらいいうけど、相対的に相対的ってのはもう、相互の割合でいうと、意見の割合は、ちゃんと表示されてないと思います。

それから東海第二の再稼働については、私もどうなるか分かんないっていうのは委員長と意見同じなんですが、本当は周りがやだっていうの早めに言ったほうがいいんですよね。何でかったら電力会社も2,000何百億円かけてるわけですよ。これからもお金かける。それで、後になってから、おまえ駄目だよっていう話はね、何ていうんだろうな、誠実じゃない、一言で言うとね。ただ、それは日本原燃が望んでいたことでもあるんですよね。先延ばし、先延ばししてやってある意味いえば、もうこんなにやりかけたんだからこんなに頑張ったんですから、動かさせてくださいみたいな、話に持っていこうとしているのか、それとも、福島事故のほとぼりが冷めるの待っていうか、よく分かりませんが、まともな経営判断としたら、早めにめどを立てて、やるかやらないか決めるんだと思うんです。

まともな経営判断って言いましたけど、もともとまともな経営じゃないんですよね。要するに東海第二が動かなければ、多分ほか全部動かないんですよ。日本原電は。とは言っても、もともと日本原電は独立した会社じゃないんですよね。周りからいろいろお金を集めてやってるんで、結局、親会社が損するだけ。親会社は結局、電気料金に吹っかけるっていうようなことから、さっき言ったように、先延ばし経営判断として、先延ばしするっていうのも起きちゃうのかなと思います。

笹島委員　先ほど言った日本原電も、ここ１か所しかないから社運をかけているんでしょう。同時に今言ってた東北電力とか、東京電力から、今言った借入れしてるわけでしょう。それを返していかなきゃいけない、余りにもそう、もう余りにも今言った借入れとか、そういういろんなもので投資し過ぎてるんじゃないですか。ちょっと後戻りできないでしょう、結果的に今は。いや、できないできないでしょうね。だからそれも政府も分かってるから後押ししているようなでしょう。今言った東北電力、それから、東京電力もやはり後押ししていかなければ、みんな、今言った投資したものはパーになるから、何としてでもやっぱり再稼働していくっていう、いろんなそういうふうにしていって我々はその中の小さいところに一部いるような感じしてるんで、流れはもう決まってきてるんじゃないですか。

委員長　その件に関しては４月ですか、日本原電が説明に毎年恒例で来ますのでそのときに聞いてみてください。原電がどう考えてるか、今ここでぼくらに聞かれても原電がどう考えてるかちょっと分からないので。

副委員長　ちょっと私の完全私見です。

まず一つはメンツみたいなのあると思うんですよ。それで企業自体としての赤字とか考えたら、どっちみち赤字ですね、めちゃくちゃ。何でこんなに無謀なことやるのかというとさっき言った無責任体制ということが言えると思います。

責任問題っていろいろなところ出てきますよね。例えば、福島事故の責任は誰がとるとか、この間も別の件で責任ある話があった。だけど、何ていうかな、結局そういうことを進めた方々が責任とらざるを得なくなっちゃうんですよね。福島事故だって、東京電力は、国のものになっちゃったけど、誰がどれだけ責任とったかって言ったら、怪しいですよね。責任とったと思っています、皆さん。僕からすれば、もう原子力業界全体が物すごい責任取らなきゃなんないんだけど、絶対大丈夫なんて偉い先生方もさんざん言ってました。皆さん知らないかもしれないけど、だけどその人たちいまだにね、偉い位置にいて、能天気に考えてるわけですよ。ごく少数の人が、おれはとんでもないことに手をかしてしまったとか、やっぱりこれまずかったといって反省の弁を述べたり、身を引いたりしてるんですけど、ごく少数ですよね。だから、責任は取れない結果、例えば、原子力規制委員長が辞任するとかね、責任取って。そんなの取ってもらったってそうかってだけですよね。本当の被害があった方にとっては。原子力規制委員会もそうだけど、彼らの頭の中では、これも本当に私の完全な私見なんだけど、周辺はどれだけの人がいるとか、社会遺産があるかってことは考えたくないんですよ。

実は、国際原子力機関ＩＡＥＡというところは、立地、アセスメントの基本の一つに、周辺のことを言ってるんですけど、日本は完全に無視してます。無視してないんだったら東海第二を許すわけないんですよ。何ていうかな、一応オールオアナッシングじゃないみたいな事故の可能性について言ってるんだけど結局、ほかの原子力立地と変わらない規制をしてるんです。

ところが、不安は多分あるんですよ。外れるかもしれないってね。でも、建前を崩せない、これだけのことやれば安全ですみたいな、一方で絶対安全と言わないんですけどというようなことじゃない。

それから、被害の大きい小さい、人的被害が大きい小さいというのに対して、違いを明確に考えてないんですよ。例えば１人死ぬのも市民100人死ぬのも、１万人が被曝のリスクで、例えば何十年後かに何十人ががんになって死に至る可能性があるっていうのも、別だって考えないんですよね。それがあるから、東海第二を特別何ていうかな、駄目だとなかなか言えないんじゃないかなと思ってます。

委員長　今のは副委員長の私感ですので、委員会としての意見じゃないです。

笹島委員　大問題だよ、それ。今言っていた世界中どこ見渡しても、60万30万って言って、世界から物笑いされてますよね。いやおれは前から思っていたの、それは。

委員長　今のは副委員長の私感なので、そのままで聞いといてもらえれば大丈夫です。議

論するとこじゃないです。

ほかございますか、よろしいですかね。

この件につきましては後ほど回答案のほうを作成していただいて、後日委員会メンバーにラインワークスで配信をさせていただきたいと思います。それを読んで頂いた上でさらに修正等があれば、ご意見を頂きたいというふうに思います。

ほか、議事に関係なくても構いませんが何かご意見、ご質問等ございます方あるいは挙手にてお願いいたします。

副委員長　この間なくなっちゃった語ろう会で１人こういう事を聞きたいと回答を求めたいっていうのがありましたので、前に私、案を示したんですけど一部意見があったので、その意見を踏まえて書き直しました。紙が必要だったら、あとで渡します。

それで特に書き換えたのはほかのエネルギー資源との比較の部分です。２ページ目からになります。私の最初の案では、原子力のウラン資源は非常に少ないということを言ったんですが、これってのは本当に、施設によっていろいろあって、特に最近の日本政府がつくってるエネルギー白書でも、資源量のことはほとんど言ってないんですね。昔は言ってたんですけど。それを大幅に書き換えました。

今すぐ見ても判断しにくいかもしれませんので、見ていただいて、意見を寄せていただいて、後でまたさらに書き直しなんかしてから回答したいと思うんですが、それでよろしいでしょうか。

ちょっとだけ言うと、エネルギー資源で言うと、石油は1980年頃からだから今から40年以上前ですね、その頃から資源量が40年分と言われたんですよ。全然変わらないんですよね、年がたっても。かと言って永遠に変らないと保障されるわけじゃない。

石炭資源については余り使えなくなったから余り話題にならないんですが、これは資源物すごく多いんです。ただし、可採年数っていう概念がありまして、とって採算がとれるかどうかということなんですが、これが容易に想像できるんですけど、そもそも石油とかその他のエネルギー資源の値段次第でころころ変わる。

それから、技術革新でも変わりますね。そういう点で、原子力よりも石油とか石炭資源のほうが将来性があるという、埋蔵量として出ます。例えばシェールガスっていうのは何年か前からアメリカで開発が進んで、大騒ぎになりましたね。ただこれも、一方で、石油産出国が値段をどんどん下げると、採算がとれなくなってという話がありますから、本当に先が読めないんです。

一方原子力については、プルトニウムの再利用で、核燃料サイクル回せばという話が国で言ってるんですけど、これは実は一部をプルサーマルって言って普通の原子炉でプルトニウムを燃やすこともやってるんですけど、その先がないんですよ。だからぐるぐる回せるものじゃないってことです。

プルサーマルでつくった場合、私の知り合いに燃料の専門家がいるんですけど、彼に言わせれば、とても処理できないと、今の技術では。その開発をどれだけやってる

かっていうと、ほとんどやってないという状況があります。ウランの量についても、これは私の知り合いの研究者が海水からウラン、海水に僅かにあるんだそうです。それを取り出す研究なんかやってたんですが、やっぱり実用化への動きはないです。さらに大きなエネルギー資源としてはトリウムという元素がありまして、これは国によっては大量にあるんです。でもこれを、使う動きはほとんどないです。昔、トリウム溶融塩炉っていうのを研究開発をしてきて、一時はそういうプロジェクト、今までもあるかもしれませんが、日用レベルまでかなり程遠いという状況です。

総合的にまとめると、石油とか石炭については、目に見える範囲で技術改革とか資源の新しいが見えてるんだけど、原子力関係は行き詰まっていると。可能性はゼロじゃないかということですね。そういうことが、書き換えた部分です。

あと何かもう一つ指摘があったような気がするんですが、ちょっと抜けてるかもしれませんので、ぜひ読んで頂いてまた指摘してください。

委員長　前回の委員会でお話をさせていただいてそこをちょっと修正していただいたということでございますので、またさらにご一読頂いて、何かこれ直してほしいとか、もしご意見あれば、ラインワークスで頂ければというふうに思います。

ほかよろしいでしょうか。

渡邊委員　前の語ろう会のときに、ＰＴＡの方を呼んで環境団体と一緒にやったときにＰＴＡの方々から、ちょっと知識をもっと勉強したいんだよっていう意見があったかと思うんですよ。

で、原子力安全対策常任委員会で行うっていうものじゃないと思うんですけどもどこかの本来だったら原電とか研究所とかああいうとこの方々に来てもらって、いろいろ勉強っていう機会を与えてもいいのかなと思うんですが、この辺についてどういうふうにしてったらいいのかなっていう意見は一応頂いてるわけですから、あれをどう反映していけばいいのかなってちょっと疑問だったんでちょっと聞いたんですが。

委員長　確かにそういうご意見ありまして、市民向けの勉強会、私たち議員は議員向け勉強会とかやってますけども市民向け勉強会っていうのは確かにやってもいいのかなっていうのは思います。で主催がうちの委員会でやるか。そういう声が委員の中から出てくればそういうことも検討していく必要があるかなというふうに思います。恐らく執行部のほうでやるってことはないと思うんです。ただ議員として議会、この委員会として市民からそういう声があったので委員会が主体になって開催するということは、できなくはないかなというふうに思います。ただ、お金が絡んでくることなので、もしやるとなれば、慎重に話を進めていかなきゃいけないかなというふうに思います。

副委員長　その点には私も賛成なんですけど、誰をどういう話をするか誰がどういう、そこが難しいですね。一つは容認派と反対派それぞれのしっかりした方を見い出して、やるっていうのもあったかなと思うんです。ただそれとは別に、私自身の某政治団体で、やりたいと思ってるんですが、なかなか仲間ものってこないんですよね。なんで

だか分からないんですけどね。

確かに基礎的なことを、実は知らない方が多いです。そもそも原子力はどうだって、どういうものって、原子力やってる方だって知らないっていう感じがありますからね。

要するに自分の限られた有無しか見てなくて、全体像を見ない人がやたら多い。それともう一つは、工学的なことを知らない能天気の人がやたら多い。

委員長　やるとすれば再稼働賛成反対のバイアスがかからない形で、あくまでその一般知識としての原子力発電等の勉強会っていうのがいいのかなというふうに思います。それが今副委員長からあったような、賛成、どっちを呼ぶかみたいなバイアスがかかっちゃうと、ちょっと委員会としてやるのにはふさわしくなくなってしまうので、あくまでいわゆる基礎知識的なところでいいのかなというふうも思うんですけれども、例えばＢＷＲとＰＷＲの違いとか、あとは何か燃料的な部分で、さっき副委員長からもありましたような将来の埋蔵量の話とか、そういったいわゆる基礎的な話がいいんじゃないかなというふうにやるとすればですけど思います。

副委員長　私の考えでは、基礎的な話っていうのは、そこそこ福島事故なんてやったんですよね。みんな何かって言ったら、事故の可能性とどんな事故かっていうことなんですよ。そこは、１番難しいところですね。それに対して、やるとしたら、漠然とした知識よりは、できれば容認派と、反対派。ガチンコ風が面白いと思ってます。

委員長　ちょっと今後検討していきたいというふうに思います。

ありがとうございます。

暫時休憩いたします。

再開を 11 時 10 分といたします。

休憩（午前 11 時 02 分）

再開（午前 11 時 10 分）

委員長　それでは再開いたします。

それでは視察の件などあれば、ご協議頂きたいと思うのですが、視察先としてご提案ある方、挙手にてお願いいたします。

笹島委員　どちらのほうに西東っていう・・・。

渡邊委員　先ほどのお手紙の中にも女川と鳥取とありましたので、女川原発を見て見るのもありなのかなと思うんですけども。

委員長　ありがとうございます。女川原発という意見が出ました。

ほかございますか。

笹島委員　関西のほうはどうでしょう。

委員長　この間福井県に行きましたので。

笹島委員　それは北陸でしたね。

笹島委員　関西、四国方面はどうかなっていうことなんですけど。

委員長　関西、四国原発ちょっと思いつかないんですけど原発じゃなくてもいいんですけ

どね。あと方向の問題じゃない、目的の問題なので。

笹島委員　四国行ったことないので。

委員長　視察先につきましては副委員長と相談の上、決めさせていただいてよろしいですかね。

（なし）

委員長　ほかご意見ある方いらっしゃれば、挙手にてお願いいたします。

よろしいでしょうか。

大丈夫ですか。

（なし）

委員長　それでは本日の議題は全部終了いたしました。

以上で原子力安全対策常任委員会のほうを閉会いたします。

皆様お疲れさまでございました。

閉会（午前11時13分）

令和７年３月27日

那珂市議会　原子力安全対策常任委員会委員長　　小宅　清史